

補助事業番号 19-48

補助事業名 平成19年度機械工業の経営及び関連する経済に関する調査等補助事業

補助事業者名 財団法人 機械振興協会 経済研究所

## 1. 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

わが国機械情報産業は、少子高齢化・人口減少社会の到来といった社会構造変化の中で、如何にしてグローバル市場での競争力を維持・向上することできるのかといった問題に直面している。そこで、本年度は、「社会システムの転換期におけるモノづくりの進化」に焦点を当て、事業に取り組んだ。

### (2) 実施内容

#### ①機械工業図書館のハイブリッド化とネットサービスの運用

[機械工業図書館](#)は、機械工業に特化した図書館でありながら、開館以来広く一般に公開しており、これは国内でも稀有な例である。長年にわたる情報の蓄積を、ホームページ、データベース等の充実により、広く提供するとともに、従来の来館型でのみ可能な情報資料の提供についてもいっそうの充実を図る。現在経済研究所報告書の書誌情報提供のみのデータベースを、雑誌、新聞情報、さらに図書情報と内容の充実を図っていくことで、図書館の利用の向上と活性化につながると考えた。

#### ②機械情報産業の持続的成長条件と産業組織・経営革新等に関する調査研究

[「高齢福祉型・環境配慮型社会の産業集積と『北欧モデル』の適用可能性に関する調査研究」](#)

[「人に優しい社会システムの構築とモノづくり企業の可能性」](#)

[「機械関連産業における多様な人材の活用に関する調査研究」](#)

[「産業資本施設メンテナンスの投資効果評価手法に関する調査研究」](#)

#### ③機械情報産業のアジアを始めとするグローバル展開等に関する調査研究

[「『アジア海廊』における機械産業の集積間生産分業と市場開拓に関する調査研究」](#)

[「日本発グローバル発信型ユビキタスネット向エネルギー変換デバイスに関する調査」](#)

[「ASEANのFTA進展がもたらす貿易拡大の評価」](#)

[「中欧の部品産業集積の実態と欧州自動車市場への供給体制調査」](#)

[「アジア自動車産業と部品産業の実力及び産業集積実態調査」](#)

#### ④機械情報産業におけるモノづくり基盤等の強化に関する調査研究

[「自動車関連部品の取引環境及び企業間関係の変化とその課題に関する調査研究」](#)

[「機械工業集積地域における新たな産業基盤強化に関する調査研究」](#)

[「地域におけるモノづくり強化に向けた地域支援システムの構築」](#)

⑤機械情報産業の環境・資源・エネルギー対応等に関する調査研究

[「グローバルなモノづくりにおける機械関連企業のグリーン調達に関する調査研究」](#)

[「中国の環境ビジネス市場と日本企業進出の現状に関する調査研究」](#)

[「エネルギー多消費市場への我が国プラント産業の参入拡大可能性」](#)

[「原材料価格高騰の影響実態と『資源節約志向型製品』の開発動向」](#)

[「電気自動車の市場化可能性と機械関連産業の展開方策調査」](#)

[「電線・ケーブルのリサイクルと環境負荷・環境効率に関する調査」](#)

⑥機械情報産業における中堅・中小企業の競争力強化に関する調査研究

[「中堅・中小企業における技術・技能・ノウハウのデジタル化に関する調査研究」](#)

[「半導体・液晶関連産業の新展開と中堅・中小企業の取引拡大」](#)

⑦機械情報産業の諸制度及び長期展望等に関する調査研究

[「情報化社会における『安全安心』価値を活かした機械関連産業の活性化と課題に関する調査研究」](#)

[「日韓を軸とする機械関連統計の接合性に関する調査研究」](#)

[「RT（ロボットテクノロジー）による中堅・中小企業の競争力強化に関する調査研究」](#)

[「日本の機械情報産業シナリオ2015に関する調査研究」](#)

⑧成果の普及

各プロジェクトの円滑な進捗を図るため、プロジェクトの調整・管理を中心に事業全体の取りまとめを行った。また、研究成果の評価業務として、有識者からなる評価委員会を開催するとともに、成果としての各調査研究プロジェクトの報告書等の印刷・配布等を行い、さらに、成果を普及するための講演会、報告会等を開催した。

## 2. 予想される事業実施効果

本年度は、わが国機械情報産業の「社会システムの転換期におけるモノづくりの進化」に焦点をあて、幅広い観点から機械産業の現状、課題、施策等を調査し、その成果を取りまとめた各報告書及び他の資料等は、機械業界、関連業界などに対する有用な経営等の基礎資料として活用されている。また、これらの成果は、今後の研究内容の向上と時宜に応じたテーマを設定するために評価委員会で内容等を審議し、成果の評価を行った。さらに、調査研究成果を直接一般に公表する「[機械情報産業講演会](#)（松江市/平成19年9月28日開催）」及び「[機械情報産業研究報告会](#)（東京/平成20年3月28日開催）」では、研究成

果をベースとして、最近の経済・社会情勢や地域開発と企業経営問題を報告したことから、多数の参加者を得、それぞれ活発な質疑がなされた。調査研究成果を含む研究所全体の事業成果は業界発展に有用な情報として[ホームページ](#)で公表するなど、様々な形態で広範囲に成果の普及を行い、今後、その活用が期待できる。

### 3. 本事業により作成した印刷物

報告書・資料名

[「高齢福祉型・環境配慮型社会の産業形成と『北欧モデル』の適用可能性](#)

[― 国内事例調査及びフィンランド等での調査に基づいて」](#)

[「人に優しい社会システムの構築とモノづくり企業の可能性」](#)

[「機械関連産業における多様な人材の活用に関する調査研究」](#)

[「産業資本施設メンテナンスの投資効果評価手法に関する調査研究」](#)

[「機械関連産業におけるASEANとの戦略的パートナーシップ ― その多様なあり方」](#)

[「ユビキタスネット向エネルギー変換デバイスにおけるわが国技術の有望性」](#)

[「ASEANのFTA進展がもたらす貿易拡大の評価」](#)

[「中東欧における自動車・部品市場 ― 集積が進む日系素形材企業の動向」](#)

[「中国自動車部品市場と素形材産業のあり方 ― 素形材企業進出の可能性と課題」](#)

[「自動車関連部品の取引環境および企業間関係の変化とその課題」](#)

[「機械工業集積地域における新たな産業基盤強化に関する調査研究」](#)

[「地域におけるモノづくり強化に向けた地域支援システムの構築」](#)

[「グローバル・サプライチェーンの進展とモノづくり企業の環境経営戦略」](#)

[「中国の環境ビジネス市場と日本企業進出の現状に関する調査研究」](#)

[「エネルギー多消費市場への我が国プラント産業の参入拡大可能性」](#)

[「原材料価格高騰の影響実態と『資源節約志向型製品』の開発動向」](#)

[「電気自動車の市場動向と機械関連産業の展開方策調査」](#)

[「電線・ケーブルのリサイクルと環境負荷・環境効率に関する調査」](#)

[「中堅中小企業のデジタル化によるモノづくり基盤の強化」](#)

[「半導体・液晶関連産業における中堅中小企業の取引拡大」](#)

[「『安全・安心』価値を活かした機械関連産業の活性化と課題」](#)

[「日韓を軸とする機械関連統計の接合性に関する調査研究」](#)

[「RT（ロボットテクノロジー）による産業波及効果と市場分析」](#)

[「日本の機械情報産業シナリオ2015に関する調査研究」](#)

[「調査研究評価委員会資料（平成19年度）」](#)

[「講演会テキスト・パンフレット（島根県松江市）」](#)

[「報告会テキスト・パンフレット（東京都港区）」](#)

[「機械経済研究 No.39」](#)

[「Engineering Industries of Japan No.42 \(英文機関誌\)」](#)

「平成 19 年度 機械工業経済研究報告書要約集」

#### 4. 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 財団法人 機械振興協会 経済研究所  
(キカイシンコウキョウカイ ケイザイケンキュウシヨ)

住 所： 105-0011  
東京都港区芝公園 3 丁目 5 番 6 号

代 表 者： 会長 豊田 章一郎 (トヨダ ショウイチロウ)

担当部署： 企画管理室

担当者名： 企画管理室長 宮本 光一郎 (ミヤモト コウイチロウ)  
企画管理室 吉村 泰子 (ヨシムラ ヤスコ)

電話番号： 03-3434-8251

FAX 番号： 03-3434-3696

E-mail： <mailto:yosimura@eri.jspmi.or.jp>

U R L： <http://www.eri.jspmi.or.jp>